

2024年1月理事会議事録

日 時：2024年1月27日（土）14：00～17：50

場 所：日本考古学協会事務所・オンライン会議

出 席：辻 秀人・大竹幸恵・佐藤宏之・足立佳代・足立拓朗・岩本 崇・大坪志子・岡林孝作・亀田直美・黒沢 浩・小菅将夫・澤田秀実・高倉 純・田尻義了・谷畑美帆・野口 淳・肥後弘幸・日高 慎・藤沢 敦・藤野次史・水本和美・山崎和巳、監事：都築恵美子・萩野谷 悟、（事務局：近藤絵里奈）

欠 席：谷口 榮・溝口孝司

進 行：足立佳代

議 長：辻 秀人

足立理事から、本日の出席者は24名（うち理事22名）で過半数に達しており、本理事会が成立することが報告され、議事に入った。

会員の訃報について

小菅理事から、岩手県の中村紀顕会員が2022年7月26日、千葉県菊池眞太郎会員が2022年10月29日、群馬県の高階敏昭会員が2023年2月17日、愛知県の本田克代会員が2023年12月13日に亡くなられたとの報告があり、哀悼の意を表した。

議案第752号 退会会員の承認について

小菅理事から、岩手県の*会員、茨城県の*会員・*会員、東京都の*会員、石川県の*会員、愛知県の*会員、大阪府の*員・*会員、奈良県の*会員から2023年度をもっての退会届が提出されている旨の報告があり、承認された。

議案第753号 第90回（2024年度）総会議題案の承認について

黒澤理事から、第90回（2024年度）総会議題案の審議事項及び報告事項の提示があり、原案通り承認された。

議案第754号 「日本考古学協会公開シンポジウム」の開催について

田尻理事から、2023年12月理事会で継続審議である公開シンポジウムの開催について改めて趣旨や予算案、登壇者等の説明があった。続けて辻会長から具体的な実行体制について現理事会の任期終了後の開催となるためワーキンググループを立ち上げ、次期理事会と協力する必要があるとの補足説明があった。審議の結果、資料集印刷費削減の努力や、一般の方が対象のシンポジウムであるため、資料集や要項に理解を深められる工夫が必要であること等が求められた。開催は提案された実行体制で進めることで承認された。

議案第755号 大学における考古学教育に関する実態調査の依頼について

亀田理事から、考古学研究会と連携した大学向けアンケートに関して依頼文案やアンケート内容が提示され、結果の集計方法や今後の活用方法等の説明があった。回答の集計方

法についてはGoogleフォームに一元化して合理化を図ることが提案され、修正した上で進めることでアンケート案が承認された。

報告第972号 第90回（2024年度）総会の概要について

田尻理事から、第90回（2024年度）総会の概要について日程が確認され、①総会・公開講演会・実行委員会セッション及び研究発表会については、対面参加とオンライン参加のハイブリッド方式で行う。②懇親会・図書交換会を実施する。③日曜日の研究発表会は、口頭発表26件2会場、セッション6件3会場、ポスターセッション28件、高校生ポスターセッション16件であるとの説明があった。また、千葉大学のオンライン設備や実行委員会の体制についても説明があり、了承された。

報告第973号 2024年度予算策定に関わる予算要求について

肥後理事から、各委員会から提出された2024年度予算要求書をまとめた各事業及び委員会の2024年度予算要求一覧が提示され、2024年度収入見込み額に対し予算要求合計額が大きく上回っていることから、各事業・委員会担当理事に増額理由の説明が求められた。近年の会員数の減少による会費収入減といった財政状況を鑑みて、各事業の増額理由等をより明確に確認・調整するとの説明があり、了承された。

報告第974号 2024年度新入会員・第2回資格審査について

藤野理事から、1月12日（金）に、委員長・副委員長及び担当理事による第2回入会資格審査委員会を開催し、第1回入会資格審査の正会員申込保留3名の再審査を行ったところ、うち2名は資格基準を満たし、1名は資格基準に該当しないと判断された。よって、2024年度新入会員の入会資格審査は、申込総数50名、うち資格基準該当者は46名となり、3月上旬に全正会員に該当者の名簿を送付するとの報告があり、了承された。また、2回の入会資格審査委員会を経て、委員から内規の解釈及び運用について修正の提案があるとの説明があり、改めて理事会での報告が求められた。

報告第975号 会費高額滞納者への催促分担について

肥後理事から、現段階で3万円の高額滞納者35名の報告があり、各理事が分担して督促に当たることとなった。

報告第976号 「国際先住民の日記念」4学協会シンポジウムの報告

佐藤副会長から、1月20日（土）に行われたアイヌラウンドテーブル関係の「国際先住民の日記念」4学協会シンポジウム「これまでのアイヌ研究を踏まえた今後の取組について」について予稿集の提示があり、当会から研究環境検討委員会研究倫理部会の矢島國雄部会長が参加し、報告を行ったことが説明され、了承された。

報告第977号 協会ノベルティとグッズについて

大竹副会長から、高校生ポスターセッションの参加校に配布する記念品についてオリジナルの付箋セットの企画が説明された。今後は配布だけでなく、総大会でもオリジナルグ

ップズとして販売できる余地があるとの説明があり、デザインの調整を引き続き行うことで、了承された。

報告第978号 各委員会等における2023年度会議等報告について（その6）

1 災害対応委員会の報告

田尻理事から、令和6年能登半島地震の発生を受けて1月7日（日）にオンラインで委員会を開催し、①会員の安否確認は個人情報取り扱いの観点から委員会としては行わない。②文化財被災状況に関する情報収集を行う。③公式サイトでの情報発信を行う。④2月10日（土）の第6回カフェde考古学に能登半島地震に関する話題を加え、定員を30名から100名に増員する。⑤従来行われていた特別委員会を設置するのではなく、災害対応委員会に現地の会員を中心に臨時に増員することで対応する。⑥長期的には会員安否確認システムの構築が必要であることを協議したとの報告があり、了承された。

続けて大竹副会長から、公式サイトでの情報発信について具体的な内容の説明があり、緊急時の情報公開手続きについて整理したことが報告された。

2 埋蔵文化財保護対策委員会幹事会の報告

藤野理事から、12月24日（日）及び1月21日（日）に幹事会を対面とオンラインのハイブリッド方式で開催し、①港区高輪築堤跡について、羽田アクセス線工事予定地の現状について確認し、今後はイコモスとの協力体制を検討しつつ、まず埋文委として要望書を提出することとする。②徳島県徳島市徳島城跡の開発計画について要望書を提出予定である。③令和6年能登半島地震における埋蔵文化財の被害状況について報告があった。④栃木県小山市琵琶塚古墳の整備工事について、栃木県考古学会による情報収集の状況について報告があり、今後は地元と充分調整し、慎重に対応することとした。⑤文化庁との懇談の日程と内容について協議したとの報告があり、了承された。

3 広報委員会の報告

野口理事から、12月13日（水）及び1月18日（木）に委員会をオンラインで開催し、①現行公式WEBサイトのセキュリティ強化を実施し、リニューアル後はさらに万全なセキュリティ対策を行う。②リニューアル後の機能について、i) 総大会の参加登録等の機能、ii) 各種オンラインサービスの提供、iii) ウェブコンテンツアーカイブ機能、iv) 会員情報管理機能等の実装を検討したことが説明された。このような機能の優先順位を精査して予算を検討し、今後仕様書を作成してプロポーザル方式で業者を選定することが確認され、了承された。プロポーザルにあたっては、採点審査基準を明確にし、理事会に改めて提案することが求められた。

また、カフェde考古学2024のチラシ、ポスターを作成するための情報提供が各委員会へ求められた。

4 機関誌編集委員会の報告

黒沢理事から、12月17日（日）に編集委員会をオンラインで開催し、①日本考古学協会賞優秀論文賞への推薦論文の選考を行い、引き続き2月中旬に意見集約を行う。②『日本

考古学』執筆要項の「研究ノート」について論文との棲み分けを明確化するため頁数を16ページとすることとして、次回理事会に改めて修正案を報告し、承認を得ることとする。
③『日本考古学』の再査読において査読者が判定をより明確化できるよう書式を修正することとした旨の報告があり、了承された。

5 『日本考古学年報』75（2022年度版）の刊行と『日本考古学年報』76（2023年度版）の執筆予定者について

亀田理事から、『日本考古学年報』75を12月1日に刊行したこと、及び76の執筆者一覧の提示とともに執筆依頼状況が報告され、了承された。

6 陵墓の報告

日高理事から、①12月25日（月）に陵墓名称についてのワーキンググループを開催した。
②立会調査見学が、1月19日（金）に白河天皇陵で実施され、11学協会14名が参加したとの報告があり、了承された。

7 研究環境検討委員会の報告

亀田理事から、1月25日（木）に委員会をオンラインで開催し、①考古学研究会と連携した大学向けアンケートについて検討した。②次年度予算について協議した。③第90回総会におけるポスターセッションについて意見交換を行った。④2024年度のカフェde考古学担当回の内容について協議した。⑤コロナ禍で中止されていた文化庁との懇談再開について協議し、今後はこれから行うアンケートやこれまでのポスターセッションの成果をアウトプットしていくとの報告があり、了承された。

報告第979号 名義使用の後援依頼に関わる承認について

山崎常務理事から、日本西アジア考古学会から「第31回西アジア発掘調査報告会」についての後援（名義）依頼があり、名義の使用を承認したとの報告があり、了承された。

その他

1 2023年度宮城大会関係の報告等について

山崎常務理事から、2023年度宮城大会第1分科会の発表において会員から問い合わせがあった内容について経緯が説明された。

2 理事選挙立候補者数の状況について

山崎常務理事から、現在の立候補者数が報告された。

以上